

報告テーマ

山地丘陵地域における出稼ぎと高齢者介護のジレンマ

氏名(所属)

金 湛(南九州短期大学)

要旨

市場経済化の進展に伴い、中国では都市と農村住民の所得格差が拡大し、農村地域では農業経済の停滞、農村の疲弊、農民の貧困など、いわゆる「三農問題」(農業、農村、農民)が深刻化しつつある。2000年以降、中国の農村地域では労働力の流出に伴う過疎化が目立つようになった。同じ過疎化問題でも日本は「文化の伝承」や「アイデンティティの喪失」を危惧することに対して、中国では、経済発展の問題---すなわち、高齢者問題が持続的な経済発展を脅かす問題として取り上げている。特に山地丘陵地域において、収入源の確保と高齢者介護が両立できず、多くの高齢者は生きることに対して(生活に必要な最低限の収入を確保すること)、家族による介護を諦めざるを得ない窮地に立たされている。近年、城鎮化(都市化)、城郷(都市と農村)一体化など、従来の戸籍制度を中心とする「都市・農村の二元構造」の撤廃による農村地域の諸問題の解決や処方箋の提示などが議論の中心になってきた。

以上のような状況・論調に対して、本報告は批判的に見ている。貧困や高齢者問題を含め、現段階では「三農問題」解決の見通しが全く立っていないと言ってよい。特に山地丘陵地域において、産業発展の限界と衰退、若年層の流出に伴う労働力不足、社会保障の不備により都市への移住或いは農村での滞留共に所得の確保と高齢者介護が両立できないといったジレンマがある。つまり、現段階では“二者択一”の窮地に立たされる状況になっている。

本報告は、山地丘陵地域に位置する湖北省麻城市を対象とするものである。所得の確保と高齢者の介護に当たって、住民は家族構成、地域経済の特徴、社会保障などの状況を総合的に考慮し、同じ地域でも、立地条件によって出稼ぎの量とパターンが大きく異なっていることを明らかにしている。また分析の結果から、過疎地域の貧困と高齢者の問題は、都市化政策と人口管理政策だけでは解決が望めず、基盤産業の強化と社会福祉制度の改革が必要であることを強調している。